

# 令和5年度 相模原市立中野中学校 公開授業研究会

1. 日 時 令和6年1月29日(月) (受付:10:20~)

2. 事前説明会:体育館(10:35~)  
相模原市立中野中学校の取組紹介

3. 公開授業

① 3校時(50分) 10:55~11:45 (3クラス公開)

| 学 級 | 教 科 | 授業者            | 単 元 名        | 会 場   | 分科会会場 |
|-----|-----|----------------|--------------|-------|-------|
| 1-3 | 数 学 | 花輪 広太<br>加藤 麻子 | 空間図形         | 教 室   | 2-1   |
| 2-2 | 美 術 | 山内 文乃          | ギフトボックス作り    | 美 術 室 | 2-2   |
| 2-3 | 理 科 | 渡部 樹           | 地球を取り巻く大気の様子 | 教 室   | 2-3   |

— 昼 食 (11:45~12:20) —

**\*昼食は各自ご持参ください**

② 4校時(50分) 12:40~13:30 (3クラス公開)

| 学 級 | 教 科 | 授業者   | 単 元 名                    | 会 場 | 分科会会場 |
|-----|-----|-------|--------------------------|-----|-------|
| 1-1 | 社 会 | 杉本 凌  | 南アメリカ州                   | 教 室 | 3-1   |
| 3-2 | 国 語 | 中村 剛  | 3年間の学びを振り返ろう             | 教 室 | 3-2   |
| 3-3 | 英 語 | 増井 啓示 | Let's Have a Mini Debate | 教 室 | 3-3   |

4. 全体公開

5校時(50分) 13:40~14:30

| 学 級 | 教 科 | 授業者   | 単 元 名                | 会 場  |
|-----|-----|-------|----------------------|------|
| 2-1 | 英 語 | 坂本 真矢 | World Heritage Sites | 多目的室 |

5. 分科会 15:00~15:20 場所:各教室

①授業者挨拶及び自評。

テーマは「学びのスタンダード」と「ICT活用のねらい・工夫」

②「学びのスタンダード」について感想・意見交換

③質疑応答

6. 全体会 15:30~16:50 会場:体育館

①学校長あいさつ

②授業者自評

③相模原市教育センター指導主事より講評

④講演 聖心女子大学現代教養学部教育学科教授 益川 弘如 氏

# 相模原市立中野中学校校内研究の取組紹介

## 1 主題

「学びのスタンダードを定着させ、生徒主体の深い学びの実現を目指す」  
～適切な課題設定と ICT 機器の効果的な活用による思考・判断・表現力の育成～

## 2 目的

中学校区で学びに対して取り組む「学びのスタンダード」をベースとした授業改善に取り組み、更に学びを深めるために効果的な ICT の活用方法を探る。

## 3 概要

- (1) 「学びのスタンダード（※1）」を活性化するための教材と課題設定、発問の工夫
- (2) 個（一人学び）から深い学びにつなげるペア学習・グループ学習の創造
- (3) 深い学びと ICT 活用の関連付けの追究
- (4) 学びのスタンダードの振り返りデータの活用
- (5) 「OC、AC」（※2）、教科会、小・中一貫の日の中での積極的に指導力の向上

※1 「学びのスタンダード」とは

(1) ねらい

- ①自分と異なる意見を受け入れ、信頼関係を築くための話の聴き方を学ぶ。
- ②自分の意見や考えを相手に伝える方法を学ぶ。

↓ 教室掲示資料 ↓



## (2) 生徒の目標

中野中学校区での9年間を通した、つながる力(受容・傾聴力→思いを受け止める力、発信・表現力→思いを伝える力)の育成を目指す。

## (3) 教師の目標

- ・生徒の実態にあわせた授業改善。(今身に付けなければいけない学力を伸ばす)
- ・学び合い学習を活性化させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。(校内研テーマ)

#### (4) 教師のスタンダード

- ・単元を通した目標設定をし、黒板やTV、classroom等に「本時の流れ」を掲示して授業の流れを「見える化」する。
- ・教師が話す時間を減らし、生徒の活動時間を確保する（調べ学習、発表資料のまとめ等）
- ・学びのスタンダードは継続的な指導をしなければ身につかない。特に、つなげ方（仲間の考え・既習内容・教材・自分の経験等）は例を示して意識させて発言させるなどの訓練を行う。また、問い返し「どうして どうする なぜ わけは どうしたい どういうこと」でさらなる深い学びへ焦点化していく。
- ・挙手、意図的指名、つぶやきを効果的に使い分け、生徒を課題に戻す。
- ・一人学びの際に机間指導で生徒の学びを把握し、ペア学習、グループ学習の道筋を作る。生徒自身が学びを深めるために途中参照・他者参照できる環境を整える。（ICT活用）

#### ※2-1 「OC、AC」とは

- ・OC：Open Class→簡易的な公開授業
- ・AC：After Class→OCを参観した教員同士での協議会

|   |
|---|
| ～OCでの教員による授業参観の視点～  |
| ○生徒が学んでいた場面はどこか。<br>→学び合いの場面にどのような教師の活動や支援があったか。<br>(教材の提示方法、課題設定や発問の適切さ、グループへの適切な支援など) |
| ○学びが深まっていた場面はどこか。<br>→授業展開や振り返りの方法等について工夫やつながりがあったか。                                    |
| ○学びが継続していない生徒やグループを支援していたか。ICT 機器を使うだけで終わらず、学びにつながる使い方をしていたか。                           |
| ○「学びのスタンダード」を意識した話し合いが行われていたか。  |
| ○「教師のスタンダード」は意識されていたか。  |

#### ※2-2 「OC」お知らせ表の書式（例）

|   |                                     |      |      |    |          |
|---|-------------------------------------|------|------|----|----------|
| 授業実施日   | 2023/10/20                          | 授業時間 | 5時間目 | 場所 | 3-2      |
| 授業者   | ○○○○                                | 教科   | 社会   | 単元 | 基本的人権の尊重 |
| 本時のねらい  | 社会の変化に伴って、どのような人権保障が求められているのか説明できる。 |      |      |    |          |
| 使用するICT教材   | ドキュメント, スライド, スプレッドシート              |      |      |    |          |
| 参観のポイント及び授業者よりコメント（校内研テーマとは別に、授業者より）  |                                     |      |      |    |          |
| 発問・課題, 学びあい, ICT活用  |                                     |      |      |    |          |
| 【授業の流れ】①復習(5分)、②本時の概要の説明(5分)、③生徒がめあてを説明できるように調べたり実際にめあてを説明したり、教え合ったりする(35分)、④振り返り(5分)<br>授業の流れの③④を特にご覧ください。生徒たちは「個orグループ」「ワークシートは紙orドキュメント」「認知タイプ」を選び、自分の進度で、自分のレベルで学習を進めていきます。 |                                     |      |      |    |          |

#### 4 生成AIパイロット校としての取り組み（教育現場での活用による成果と課題の蓄積）

- ・St1 生成AI、Chat GPTを学ぶ（生成AIの仕組み、利便性・リスク、留意点）
- ・St2 使い方を学ぶ（AIとの対話・プロンプトスキル、ファクトチェックの方法）
- ・St3 各教科における積極的な活用（問題を発見し課題を設定する場面、アイデアを創発する場面、比較したり深めたりする場面）

～思考力を低下させるのではなく、高める使い方をする～